（報告書様式Ｃ）
【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	愛　知　県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	十四山村立十四山中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	１８
生徒数	５１	５１	６２	3	１６７	

Ⅱ　研究の概要
１．研究主題

生き生きと学ぶ生徒の育成
－教科の特性を生かした少人数指導・ＴＴ指導－

２．研究内容と方法
(1)　実施学年・教科

・　１・２年生・国語科
生徒一人一人の興味・関心や能力差に対応するため。
・　１・２年生・数学科
個別指導を充実させることで、これからの数学学習の基礎基本を定着させる必要があるため。
・　１・２年生・英語科
基礎学力が定着していない生徒には学力補充の機会を与え、基礎学力がある生徒には発展的な課題を設定し、コミュニケーション能力を高めるため。

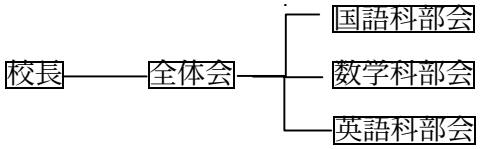
(2)　年次ごとの計画

平成15年度	○　テーマ 生き生きと学ぶ生徒の育成 －教科の特性を生かした少人数指導・ＴＴ指導－ ○　研究の見通し（仮説） 教科の特性に応じた指導形態・指導方法を工夫すれば、基礎基本の確実な定着と学習意欲の向上を図ることができる。 ○　研究の内容・方法 国語科では、「伝え合う力」を育成するために、年間の指導計画の中で、少人数指導あるいはＴＴ指導が有効であると考えられる単元において実施した。 数学科では、基礎的・基本的な学習内容を身につけるだけではなく、自ら学び考える力を育成するために、学級に３名の教師が入り、学習班毎に支援担当を決め、主たる教師の一斉指導の中に２名の教師がＴＴに入る基本的なＴＴ指導と、３名の教師が同等な立場で指導する同等型のＴＴ指導で、個々の生徒への支援の充実を図った。 英語科では、生徒一人一人の学力に対応して、日本人とのＴＴ指導と、基礎コースと発展コースの習熟度別少人数指導を取り入れた。授業の構成を一斉授業と日本人とのＴＴ指導、ＡＬＴとのＴＴ指導、コース別少人数指導の３本に分け、授業計画を立てて実践した。

平成16年度	○　テーマ 生き生きと学ぶ生徒の育成 ―少人数指導・ＴＴ指導に生きる評価の在り方― ○　研究の見通し 少人数指導・ＴＴ指導でしかできない評価を生かせば、さらに基礎基本の確実な定着と、生徒の学習意欲を向上させることができる。 ○　研究の内容・方法 国語科・数学科・英語科の指導形態・指導方法をさらに工夫し、基礎基本の確実な定着と、生徒の学習意欲を促す評価の在り方を、実践を通して研究する。

研究推進体制

○　研究組織



・　全職員がいずれかの部会に所属し、研究の推進に努める。
・　研究推進のため、月１回及び必要に応じて教科部会を持つ。
・　３教科の連絡を密にするとともに、互いの成果や課題を共有するために、適時全体会を持つ。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

○　国語科

・　学級全員に目標や方法をきちんと伝えるには、一斉指導が有効である。
・　スピーチの会や発表会は、少人数で指導すると効果がある。話す側は、緊張感が少なく話しやすいし、時間的にもゆとりがあるため、発表後の話し合いの時間も確保できる。
・　ＴＴで指導すれば、生徒が自分で課題を選んだり自分の考えた課題に取り組むときそれぞれに対応でき、生徒の意欲を高めることができる。

○　数学科

・　３名によるＴＴ指導は、担当する班の生徒の一人一人の能力を把握しやすく、生徒同士のやりとりの様子もよく観察できる。また、疑問な点があればすぐ担当の教師に質問でき、基礎基本の定着が高まる。
・　習熟度別学習ではなく、学力が平均した担当班で学習を進めることで、班内での教え合い学習による効果が大きかった。

○　英語科

・　基礎コースは、自分の学力に適した課題に取り組むことができ、生徒の意欲を促すことができる。
・　発展コースは、ふだんの授業ではできないスピーチの原稿作りや、人前で話すコミュニケーション能力を養うことができる。

２．今後の課題

○　国語科

・　本年度は、「伝え合う力」の育成に焦点を当てて取り組んでいるが、まだ「発表」の域にとどまっている。
・　少人数指導にしてもＴＴ指導にしても、生徒一人一人の興味・関心や能力差に対応するには、時間的な限界を感じることがある。

○　数学科

・　事前に教師間の打ち合わせをしたいが、授業時間が多く、十分な時間を確保することができない。

○　英語科

・　基礎コースの生徒には、更に様々な学力差がある。新しい文法事項を次々学ぶ必要があり、本来の基礎学力をつけるには、時間が十分とはいえない。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

・　生徒の国語科・数学科・英語科の学力を把握するために、平成１５年４月に全国標準学力検査（ＮＲＴ）を実施。平成１６年度も４月に実施の予定。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・　管内の各小・中学校に研究結果の概要を配布。
・　現職教育研究集会「数学部会」　海部津島・県で発表
・　ホームページの作成と公開

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑ １５年度からの新規校　☐ １４年度からの継続校

【学校規模】　☐ ３学級以下　☐ ４～６学級
☑ ７～９学級　☐ １０～１２学級
☐ １３～１５学級　☐ １６学級以上

【指導体制】　☑ 少人数指導　☑ Ｔ．Ｔによる指導
☐ その他

【研究教科】　☑ 国語　☐ 社会　☑ 数学　☐ 理科
☑ 外国語　☐ 音楽　☐ 美術　☐ 技術・家庭
☐ 保健体育　☐ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑ 有　☐ 無